

## 3 果樹

### (1) なし 農薬登録情報

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
新梢伸長促進	ジベレリンペースト (ジベレリン)	1 全ての花を除去してから塗布する。 2 幼木の場合、定植1～3年目の未結果樹に使用する。
(主として早生品種) ・熟期促進 ・果実肥大促進		1 樹勢により効果に差がみられるので、処理樹(果)は健全なものを選ぶことが大切である。 2 処理時に果実に薬液が付着しないよう注意する。
休眠打破による発芽促進及び発芽率の向上	CX-10 (シアナミド)	1 幼木の発芽率が向上し枝数を増やす効果が認められる。 2 県北地域では1月中旬を目安に散布するが、自発休眠覚醒後では効果が期待できないので、初めて使用する場合には農業事務所等の指導を受ける。
収穫前落果防止	ストップボール液剤 (ジクロロプロップ)	1 樹勢の弱い樹(特に長十郎)では、薬害のおそれがあるので使用しない。 2 散布直後降雨があっても再散布しない。 3 一般作物にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、他の作物に隣接した場所では使用しない。 4 調製液は、その日のうちに使用する。

### (2) 温州みかん 農薬登録情報

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
全摘果	フィガロン乳剤 (エチクロゼートエチル)	1 樹勢の悪い樹には使用しない。 2 エスレル10と混用使用すると摘果効果がより効果的になるが、エスレル10の濃度が高いと旧葉の落葉を助長する場合があるので注意する。 3 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤との混用及び散布の10日前から1～2日後までの近接散布は避ける。
間引摘果		1 裏年には使用しない。 2 樹勢の悪い樹には使用しない。

### (3) ぶどう 農薬登録情報

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	CX-10 (シアナミド)	

#### ア デラウェア

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
無種子化、果粒肥大促進	ジベレリン錠剤 (ジベレリン) ジベレリン、ジベレリン粉末 (ジベレリン) ジベラ錠 (ジベレリン) ジベラ錠5 (ジベレリン)	1 第1回処理時期を誤ると有核果が混入するので、生育状況をよく把握して適期処理を行う。 2 樹勢の弱い樹では、処理時期はやや遅めの方がよい。 3 第1回処理時、花房を容器の中で振り動かし、薬液の浸透をよくする。 4 第2回処理は、サビ果防止のため余分な薬液は果粒から落とすようにする。
ジベレリン処理適期幅拡大 果粒肥大促進	フルメット液剤 (ホルクロルフエニユロン)	1 本剤の使用により着粒過多による裂果、果実着色の遅れ、糖度低下など品質に悪影響を及ぼすおそれがあるので、利用に当たっては結果量の調整など必要な措置を十分講ずる。 2 使用目的、作型によって使用濃度、使用時期が異なるので間違えないようにする。
無種子化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大(露地) 花ぶるい防止(ハウス栽培)	ビーエー液剤 (ベンジルアミノプリン)	1 早過ぎると果房が大きくなり過ぎ、遅れると小房となりやすい。 2 第2回処理には使用しない。 3 浸漬後の薬剤は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないように適切に処分すること。

## イ 巨峰系4倍体品種

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
・無種子化、果粒肥大促進 (サニールージュを除く) ・果房伸長促進 (サニールージュを除く)	ジベレリン錠剤 (ジベレリン) ジベレリン、ジベレリン粉末 (ジベレリン) ジベラ錠 (ジベレリン) ジベラ錠5 (ジベレリン)	注意事項・その他 1 樹勢の強い着粒不安定な樹に使用する。 2 処理前に必ず整房し、又、房が大きくなりすぎる場合は枝梗ごとに切除して小房に仕上げ、脱粒しにくい房型にする。 3 花房散布は、花穂中心に散布し、新梢に飛散しないように注意する(翌年の発芽不良など障害発生)。
・着粒安定 (サニールージュを除く) ・果粒肥大促進 (サニールージュを除く)	フルメット液剤 (ホルクロールフェニユロン)	注意事項・その他 1 果実を大きくしすぎると品質の低下をきたすので、使用濃度、使用時期に注意し、摘粒、整房など適切な栽培管理を行う。
着粒増加、新梢伸長抑制	フラスター液剤 (メピコートクロリド)	注意事項・その他 1 濃度を守り、重複散布しない。

## ウ 2倍体欧州系品種

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
・無種子化、果粒肥大促進 ・果房伸長促進	ジベレリン錠剤 (ジベレリン) ジベレリン、ジベレリン粉末 (ジベレリン) ジベラ錠 (ジベレリン) ジベラ錠5 (ジベレリン)	注意事項・その他 1 第1回目処理は、花穂先端まで咲ききった時に処理する。また、薬液をゆっくり浸透させるため、早朝や夕方に行う。 2 第2回目処理は、薬液の乾きが悪いと薬害(ジベ焼け)が出るので晴天日の日中に行い、余分な薬液は振るい落とす。
・着粒安定 ・果粒肥大促進	フルメット液剤 (ホルクロールフェニユロン)	

(4) キウイフルーツ [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
果実肥大促進	フルメット液剤 (ホルクロールフェニユロン)	1 本剤は、微量でも作用するので、使用時期や濃度を誤らない。 2 薬液が果頂部に残ると変形果や過剰肥大裂を生じるので、浸漬後によくふるい落とす。 3 処理後降雨があっても再処理はしない。 4 薬液は、当日使用する分だけ調製する。 5 排水不良園、日照不足園などの不適地や樹勢の悪い樹では、使用しない。 6 処理果は、熟期が早まるので、未処理果と区別して貯蔵する。

(5) びわ(3倍体) [農薬登録情報](#)

使用目的	薬剤名(一般名)	注意事項・その他
着果安定 果実肥大促進	ジベレリン錠剤 (ジベレリン)、 ジベレリン、ジベレリン粉末 (ジベレリン) ジベラ錠 (ジベレリン) ジベラ錠5 (ジベレリン)  フルメット液剤 (ホルクロールフェニユロン)	注意事項・その他 1 本剤処理をしないと全て落花するので、ジベレリンとフルメット液剤の混合液に2回浸漬処理することが必要である。 2 樹勢が弱いと果実肥大等の効果が出にくい場合があるので、樹勢は強めに維持する。 3 1回目の使用時期が早すぎると果実が小さく、果梗部のネックが発生しやすい。 4 2回目の使用時期が遅い時や使用濃度が高い場合は果面の緑斑が残りやすい。 5 1回目、2回目使用后、湿度が高いときび症が発生しやすいので、晴天日に使用し、浸漬後よくふるい落とし、換気扇やファン等を用いて、施設内の空気を循環し、開花房又は幼果に付着した薬液を短時間で乾かす。